

---

彦根市  
在宅介護実態調査  
報告書

---

令和8年4月



## 目次

I	在宅介護実態調査.....	1
1	調査の概要.....	1
II	介護保険事業計画の策定に向けた検討.....	1
1	在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討.....	1
1.1	集計・分析の狙い.....	1
1.2	集計結果と着目すべきポイント.....	2
2	仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討.....	30
2.1	集計・分析の狙い.....	30
2.2	集計結果と着目すべきポイント.....	30
3	保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討.....	53
3.1	集計・分析の狙い.....	53
3.2	集計結果と着目すべきポイント.....	54
4	将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討.....	68
4.1	集計・分析の狙い.....	68
4.2	集計結果と着目すべきポイント.....	68
5	医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討...	81
5.1	集計・分析の狙い.....	81
5.2	集計結果と着目すべきポイント.....	81
6	サービス未利用の理由など.....	89
6.1	集計・分析の狙い.....	89
6.2	集計結果（参考）.....	90
7	独自設問.....	105



# I 在宅介護実態調査

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

要介護者の在宅生活や介護者の就労継続に有効な介護サービスを検討することを目的としている。

### (2) 調査期間と調査方法

調査期間：令和7年12月17日から令和8年1月9日まで

調査方法：郵送による配布・回収

### (3) 調査対象及び帳票の配布数と回収数

令和7年9月末日現在、彦根市内に居住する在宅生活の要介護認定者のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける（受けた）者で要介護1～5の方

配布数	回収数	有効回答数	有効回収率
1,000 件	609 件 (前回：631 件)	599 件 (前回：618 件)	59.9% (前回：62.9%)

## II 介護保険事業計画の策定に向けた検討

(※この調査報告は厚生労働省の配布する自動集計分析ソフトにより作成しています。

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。)

### 1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

#### 1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

## 1.2 集計結果と着目すべきポイント

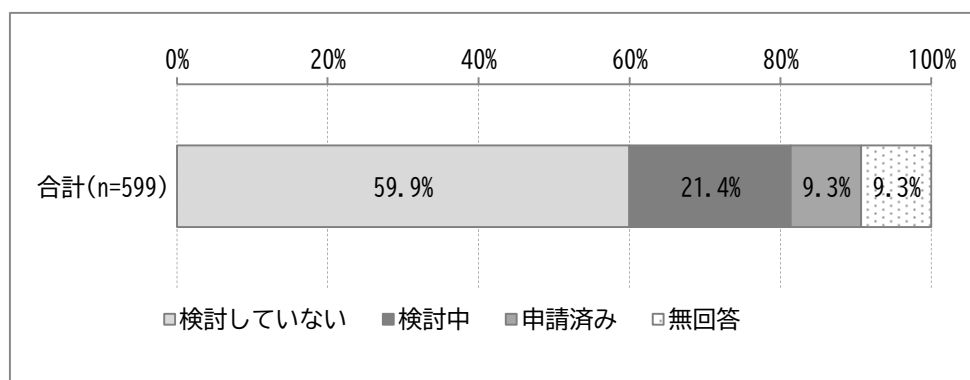
### (1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表1-1～図表1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

#### 【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 59.9%となっている。次いで、「検討中 (21.4%)」、「申請済み (9.3%)」となっている。

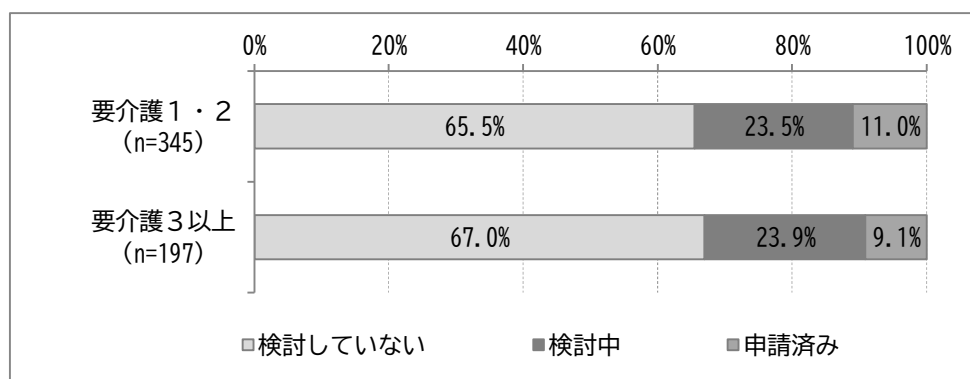
図表1-1 施設等検討の状況



#### 【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が65.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.5%、「申請済み」が11.0%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が67.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.9%、「申請済み」が9.1%となっている。

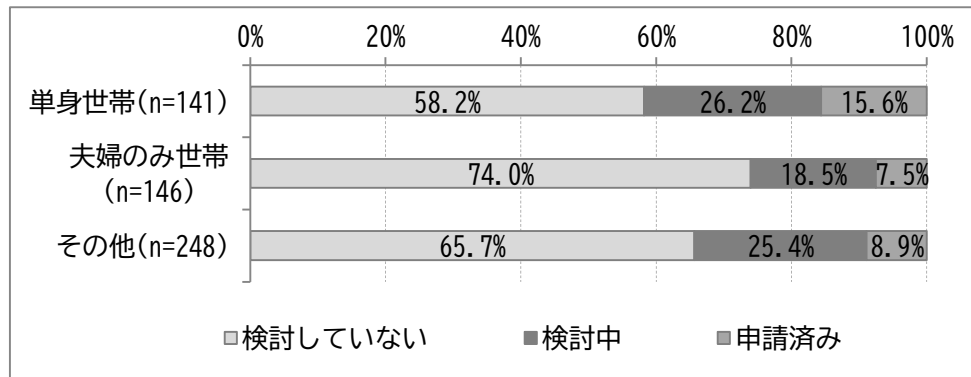
図表1-2 要介護度別・施設等検討の状況



### 【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が58.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が26.2%、「申請済み」が15.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が74.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.5%、「申請済み」が7.5%となっている。「その他」では「検討していない」が65.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.4%、「申請済み」が8.9%となっている。

図表1-3 世帯類型別・施設等検討の状況<\*>



## (2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

### 【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表1-4、図表1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安を感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安を感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に注目することで、在宅限界点に大きな影響を与えられ「主な介護者が不安を感じる介護」を推測することも可能になります。

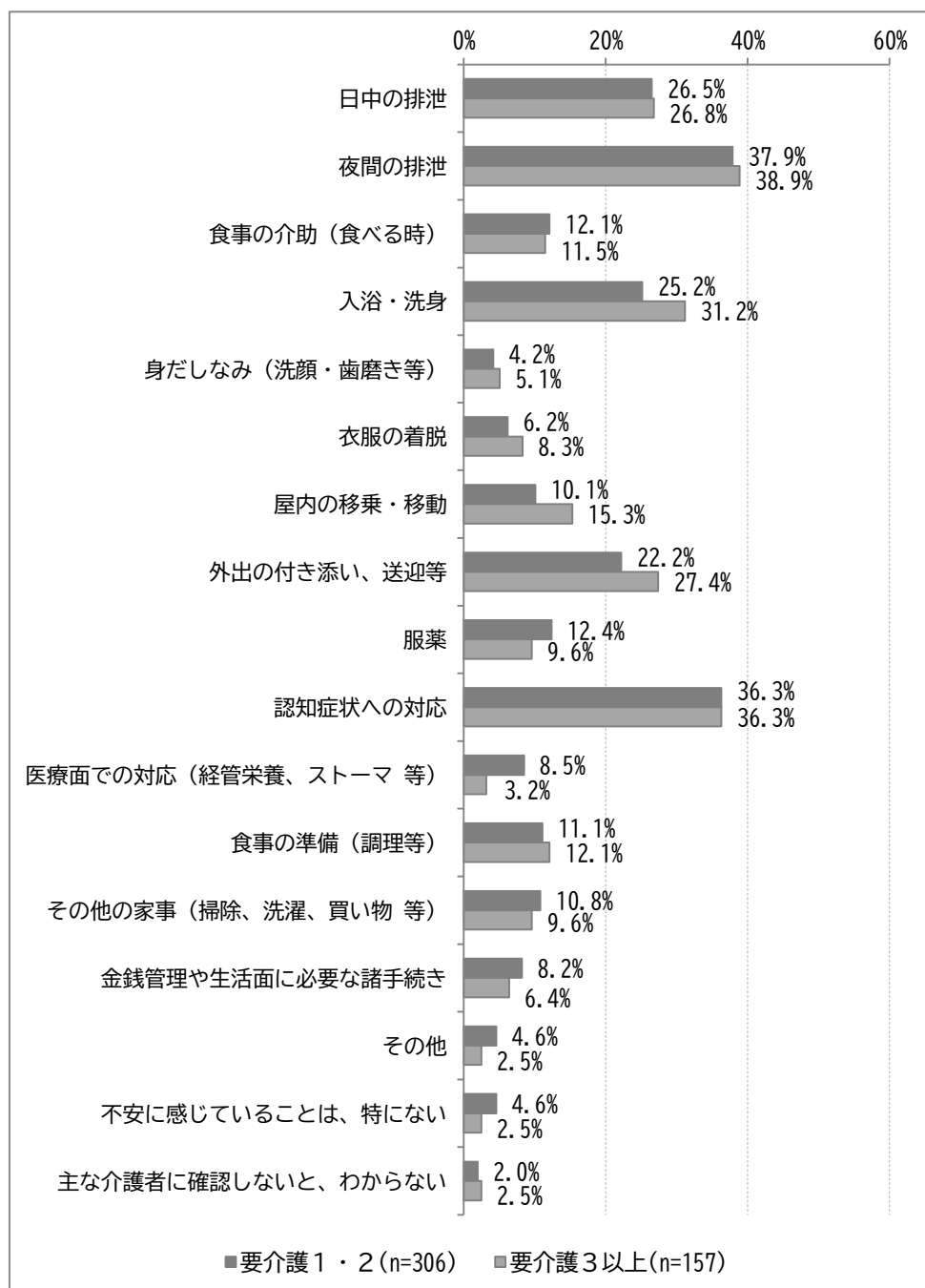
### 【留意事項】

- なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

### 【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別に見ると、「要介護1・2」では「夜間の排泄」が37.9%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.3%、「日中の排泄」が26.5%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が38.9%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.3%、「入浴・洗身」が31.2%となっている。

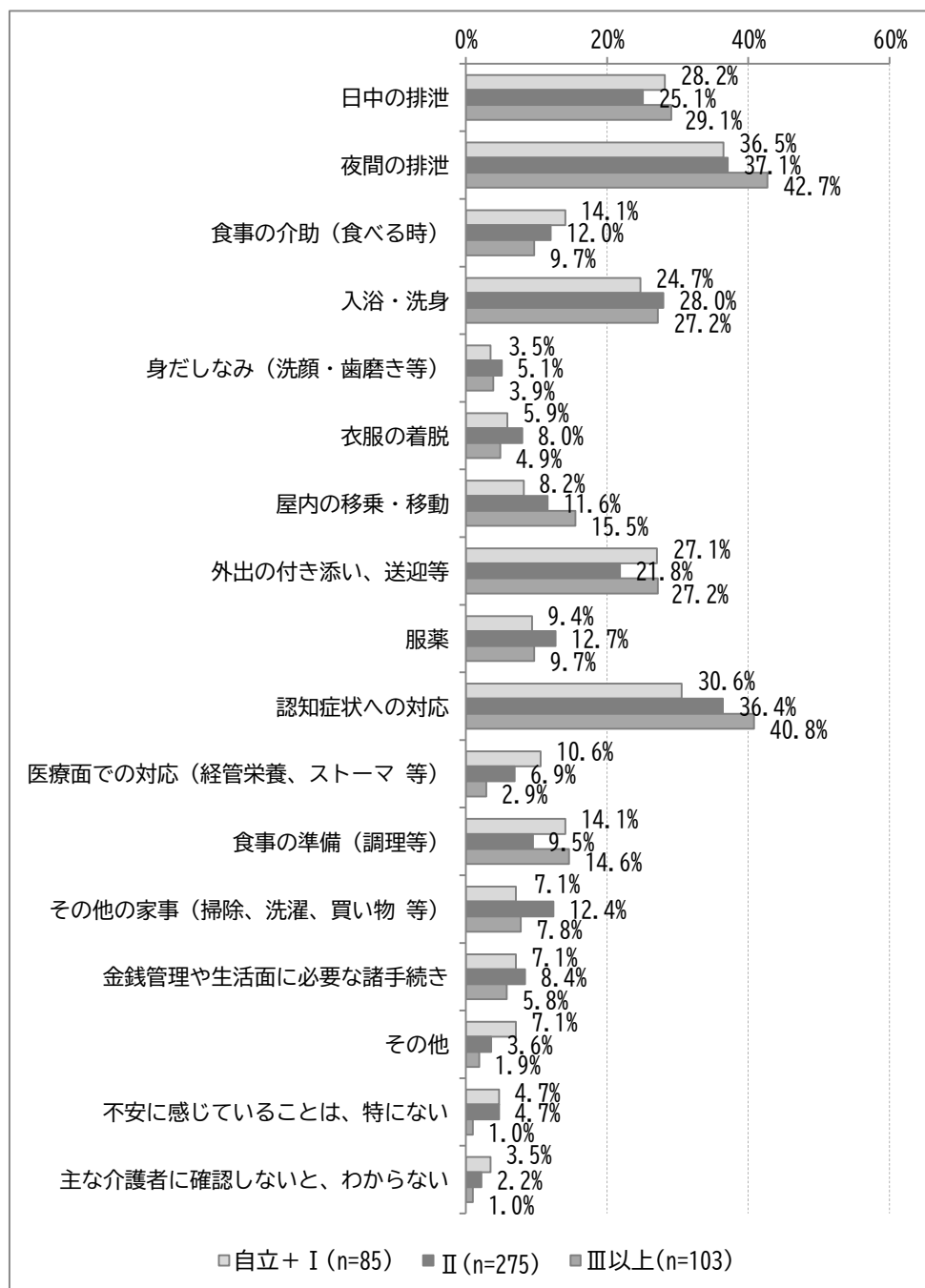
図表1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



## 【認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護】

介護者が不安を感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「夜間の排泄」が 36.5%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が 30.6%、「日中の排泄」が 28.2%となっている。「Ⅱ」では「夜間の排泄」が 37.1%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が 36.4%、「入浴・洗身」が 28.0%となっている。「Ⅲ以上」では「夜間の排泄」が 42.7%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が 40.8%、「日中の排泄」が 29.1%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護



### (3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

#### 【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表1-6、図表1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

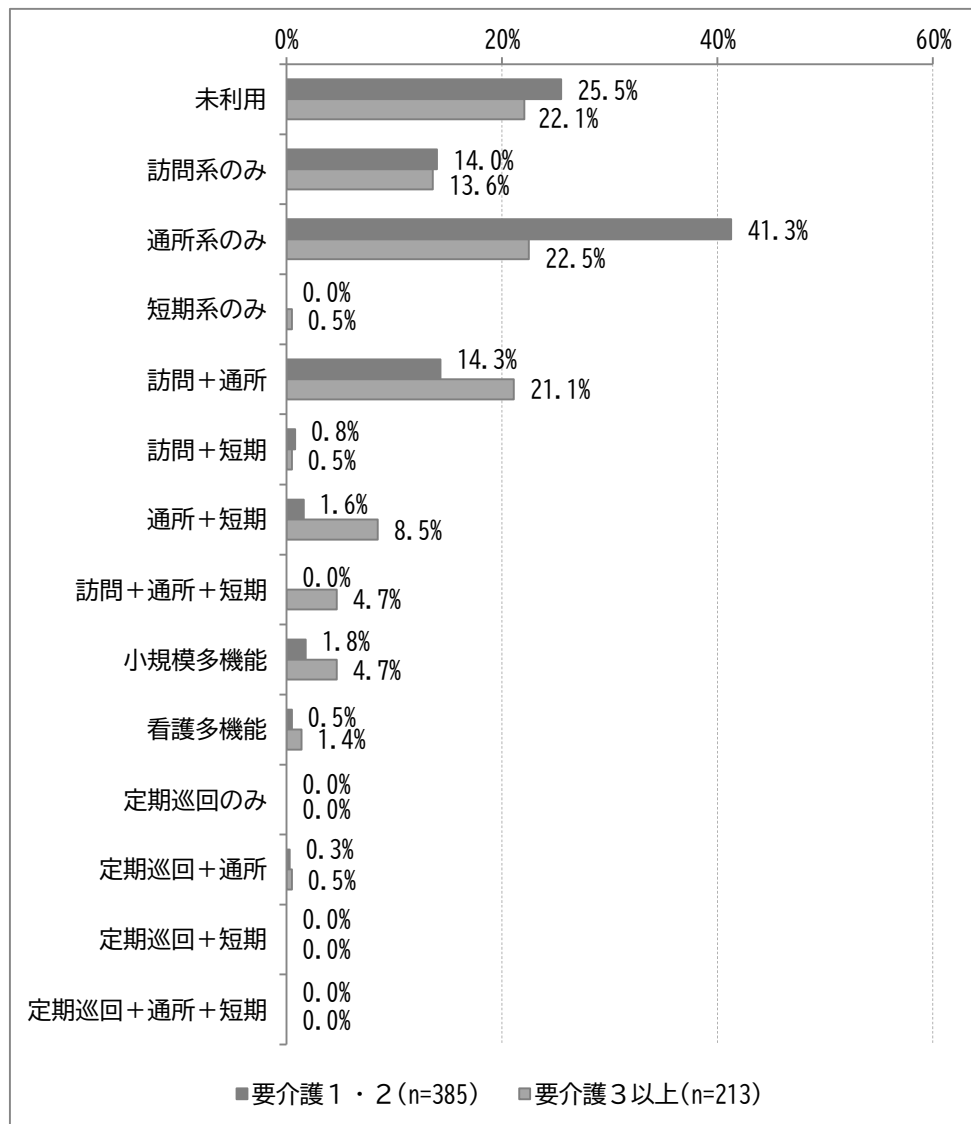
#### 【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系のみ」が41.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が25.5%、「訪問+通所」が14.3%となっている。「要介護3以上」では「通所系のみ」が22.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.1%、「訪問+通所」が21.1%となっている。

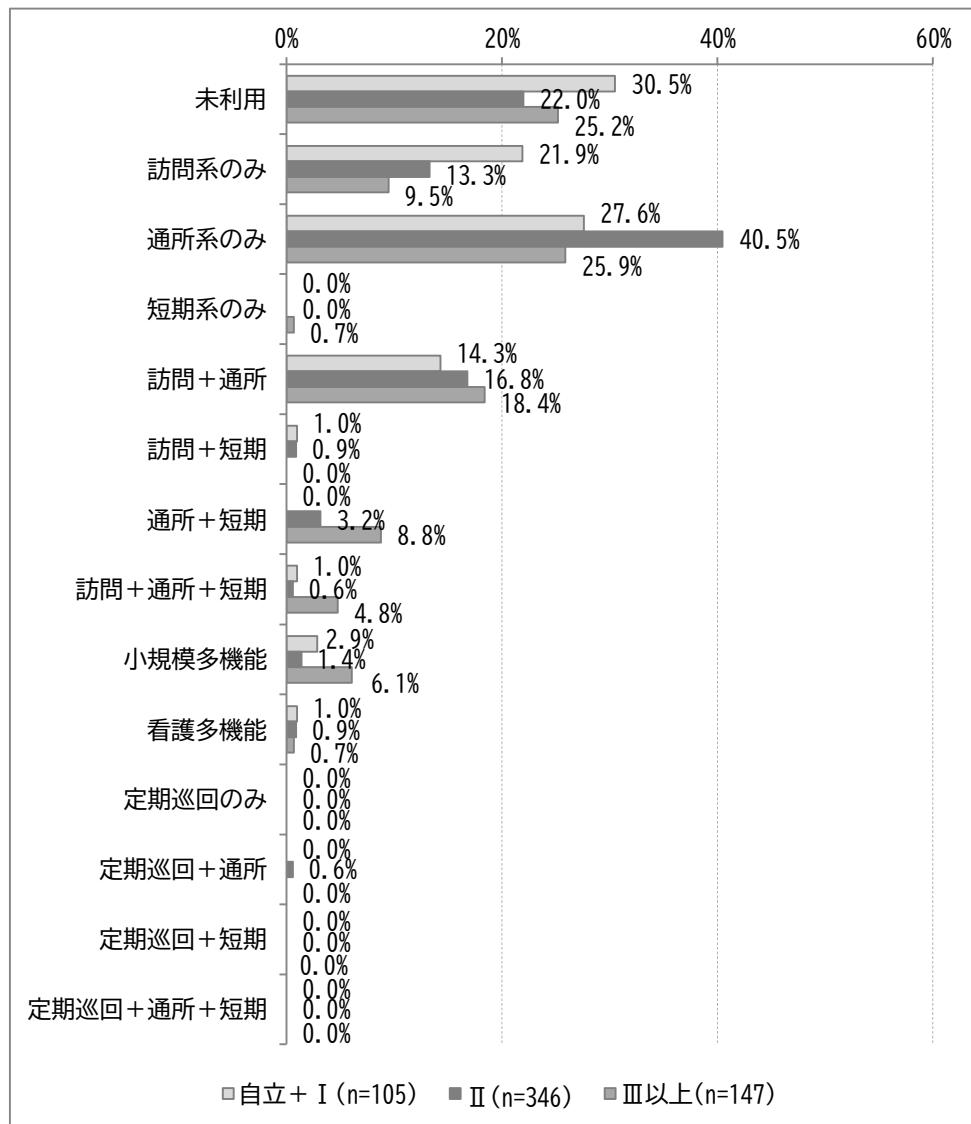
図表1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が30.5%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が27.6%、「訪問系のみ」が21.9%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が40.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が22.0%、「訪問+通所」が16.8%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が25.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が25.2%、「訪問+通所」が18.4%となっている。

図表1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



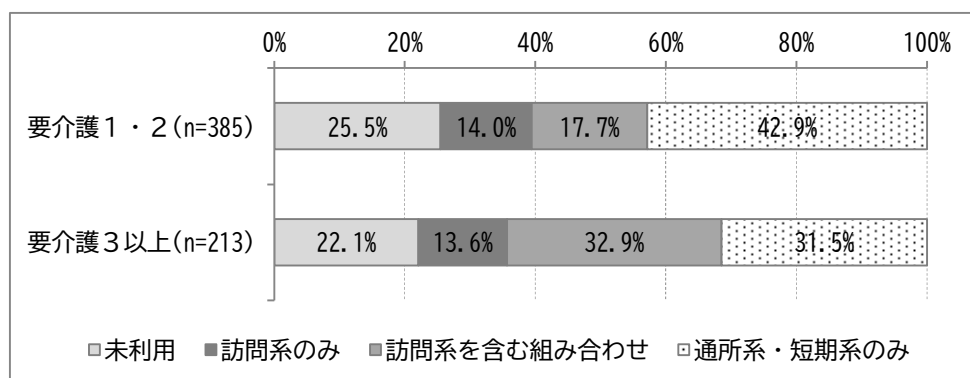
### 【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表1-8、図表1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表1-6、図表1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表1-6、図表1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

### 【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が25.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が17.7%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が32.9%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.5%となっている。

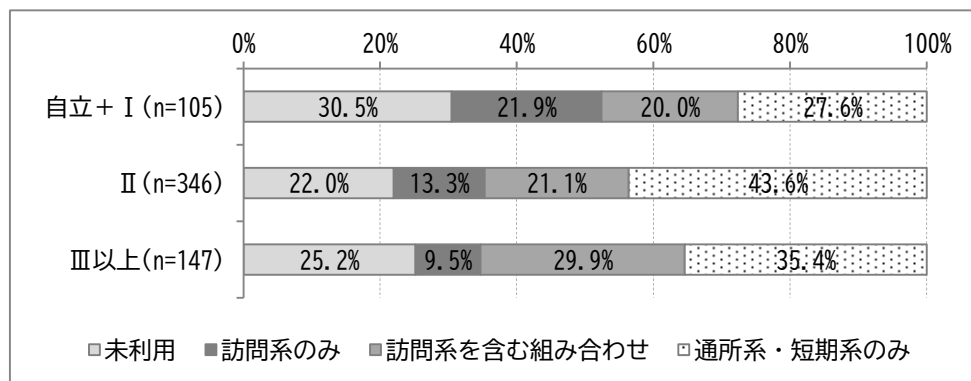
図表1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が 30.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 27.6%、「訪問系のみ」が 21.9%となっている。「II」では「通所系・短期系のみ」が 43.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 22.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が 21.1%となっている。「III以上」では「通所系・短期系のみ」が 35.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 29.9%、「未利用」が 25.2%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<\*\*\*>



#### (4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

##### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-10～図表1-12は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表1-13～図表1-15は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

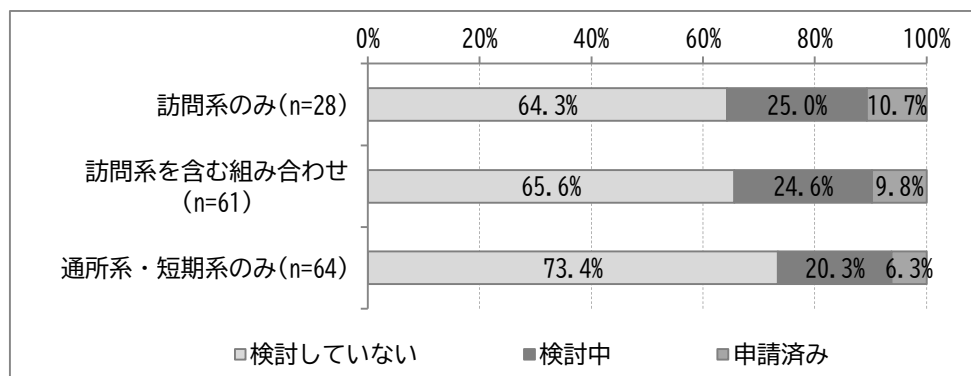
##### 【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

### 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が64.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が10.7%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が65.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が24.6%、「申請済み」が9.8%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が73.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.3%、「申請済み」が6.3%となっている。

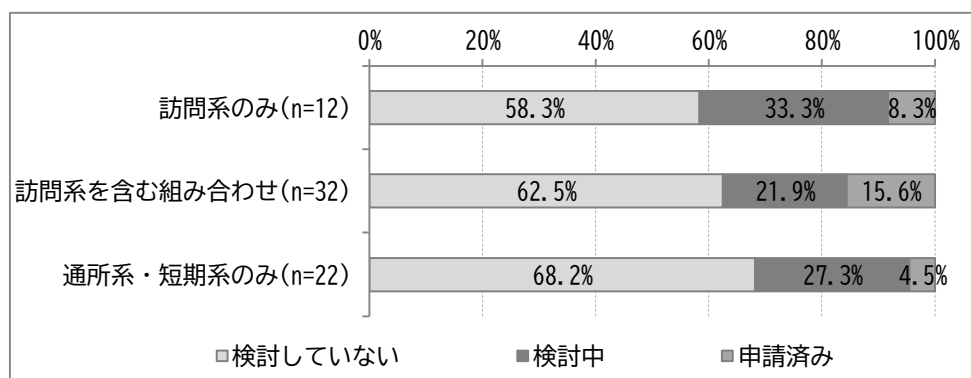
図表1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



### 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が8.3%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.9%、「申請済み」が15.6%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が68.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.3%、「申請済み」が4.5%となっている。

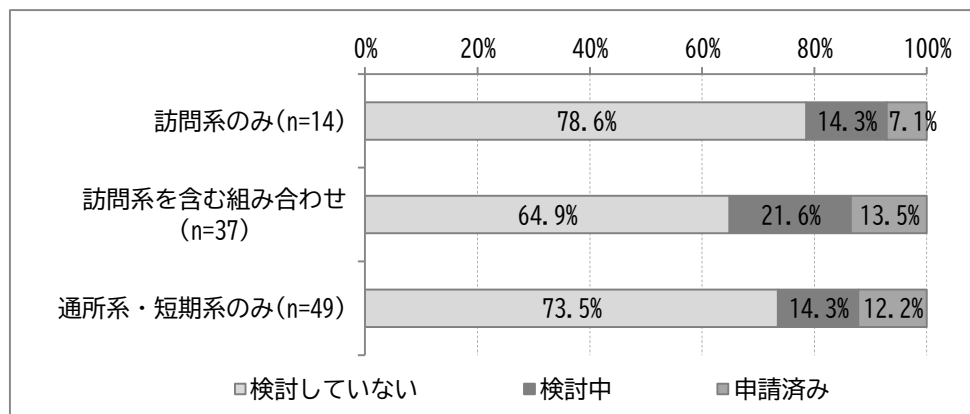
図表1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



### 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が78.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.3%、「申請済み」が7.1%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が64.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.6%、「申請済み」が13.5%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が73.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.3%、「申請済み」が12.2%となっている。

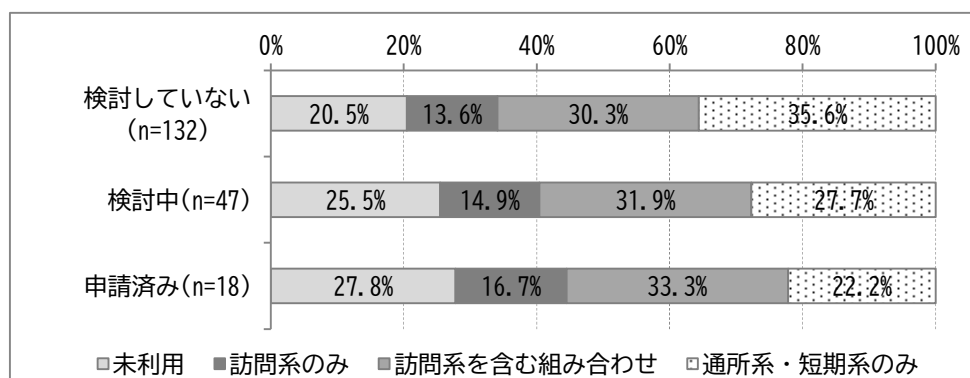
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



### 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が35.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.3%、「未利用」が20.5%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が31.9%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.7%、「未利用」が25.5%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.8%、「通所系・短期系のみ」が22.2%となっている。

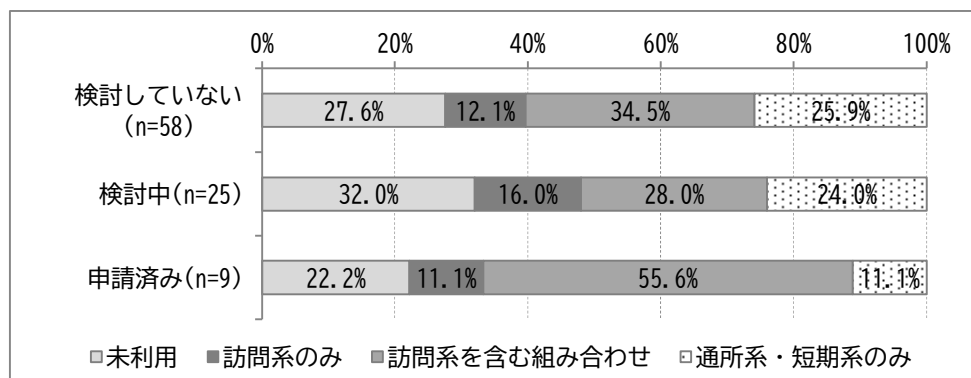
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



### 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が34.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.6%、「通所系・短期系のみ」が25.9%となっている。「検討中」では「未利用」が32.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.0%、「通所系・短期系のみ」が24.0%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が22.2%、「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が11.1%となっている。

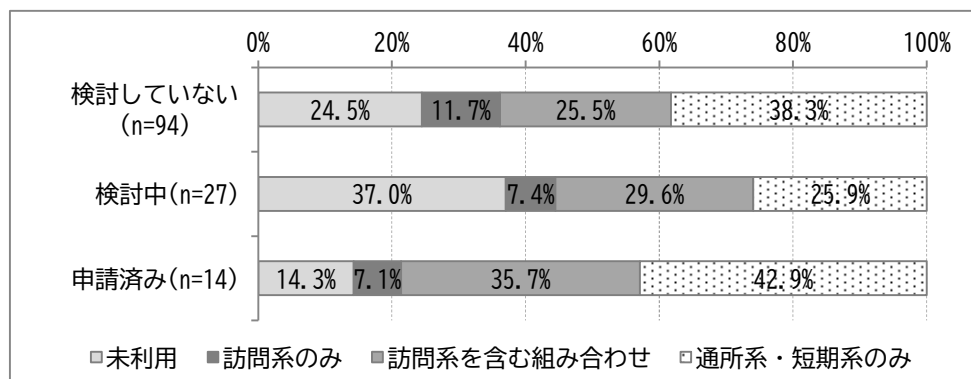
図表1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



### 【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が38.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.5%、「未利用」が24.5%となっている。「検討中」では「未利用」が37.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が29.6%、「通所系・短期系のみ」が25.9%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が42.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が35.7%、「未利用」が14.3%となっている。

図表1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



## (5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表1-16、図表1-17）。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

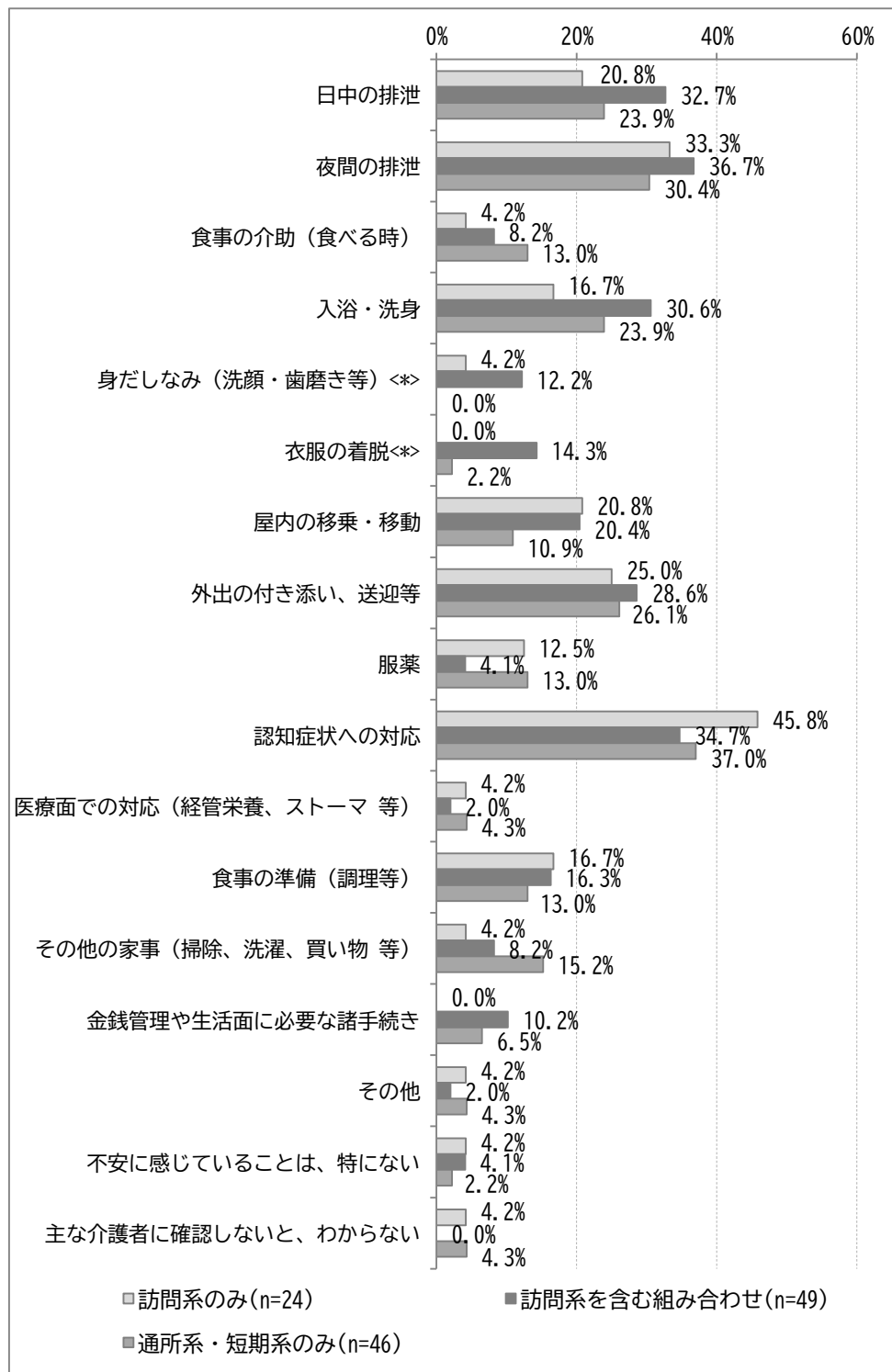
### 【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「認知症状への対応」が45.8%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が33.3%、「外出の付き添い、送迎等」が25.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」が36.7%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が34.7%、「日中の排泄」が32.7%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が37.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が30.4%、「外出の付き添い、送迎等」が26.1%となっている。

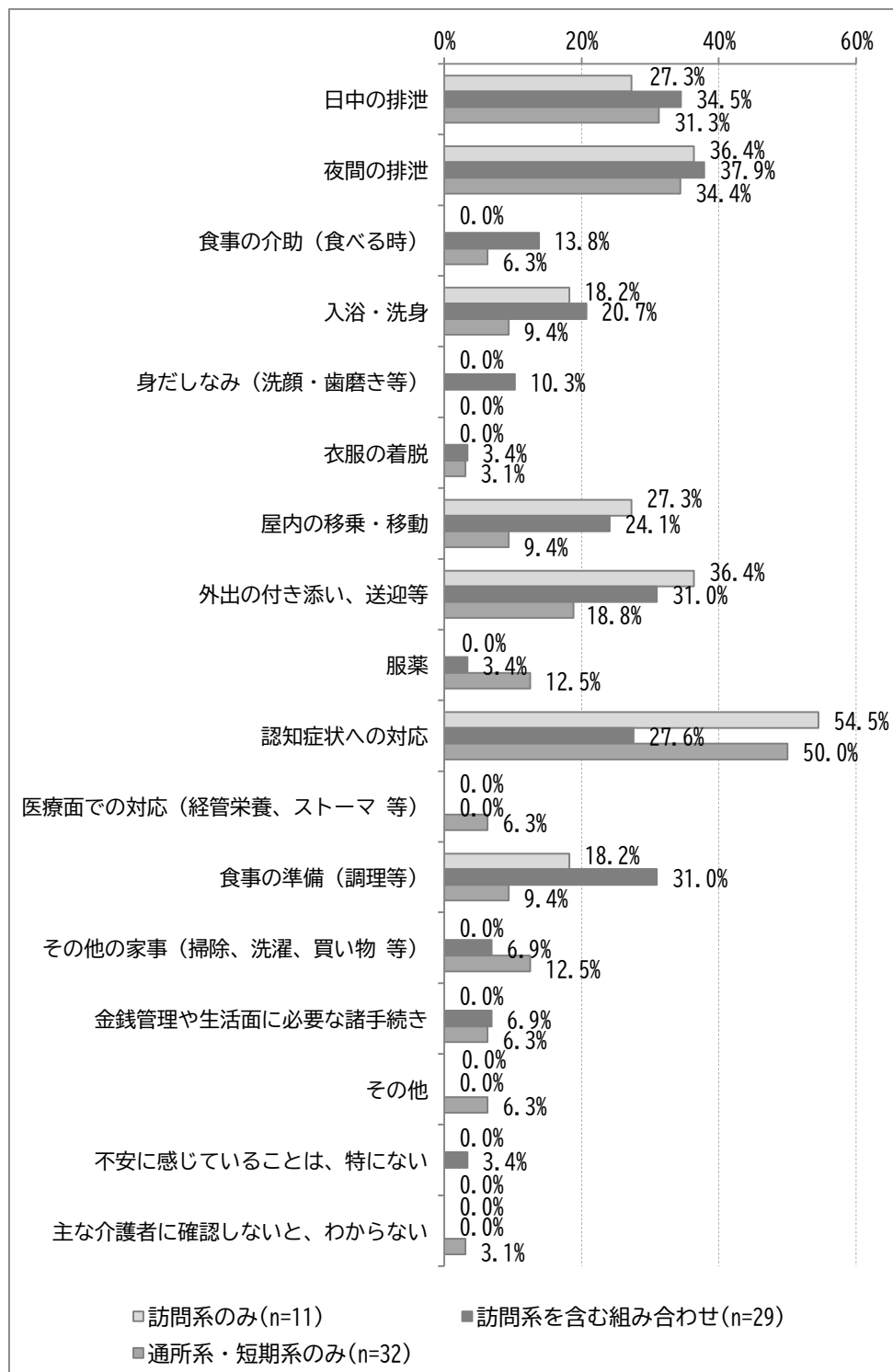
図表1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「認知症状への対応」が54.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が36.4%、「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」が27.3%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が34.5%、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」が31.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が34.4%、「日中の排泄」が31.3%となっている。

図表1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



## (6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

### 【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-18と図表1-19が訪問系、図表1-20と図表1-21通所系、図表1-22と図表1-23が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

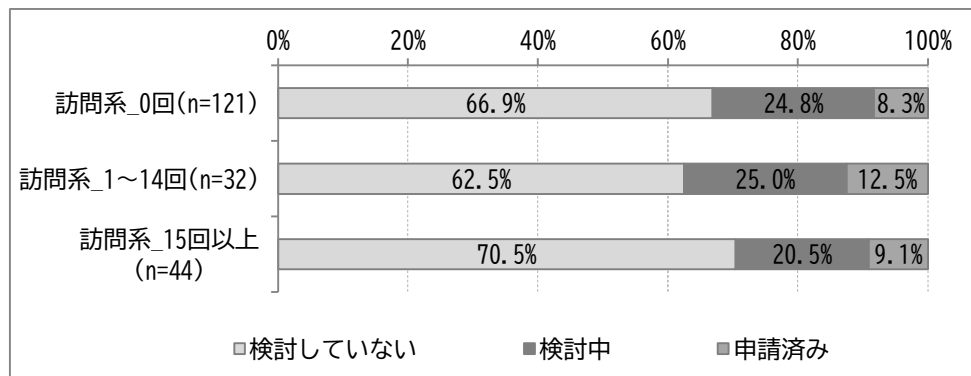
### 【留意事項】

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「検討していない」が66.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.8%、「申請済み」が8.3%となっている。「訪問系\_1~14回」では「検討していない」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が12.5%となっている。「訪問系\_15回以上」では「検討していない」が70.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.5%、「申請済み」が9.1%となっている。

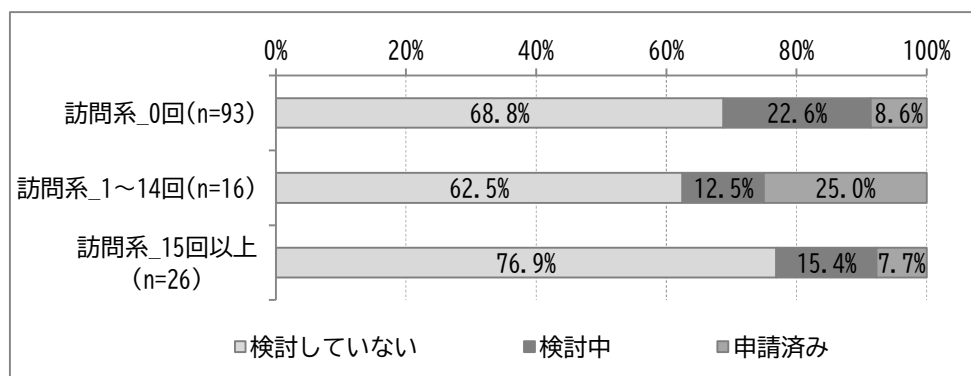
図表1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「検討していない」が68.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.6%、「申請済み」が8.6%となっている。「訪問系\_1~14回」では「検討していない」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が25.0%、「検討中」が12.5%となっている。「訪問系\_15回以上」では「検討していない」が76.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が15.4%、「申請済み」が7.7%となっている。

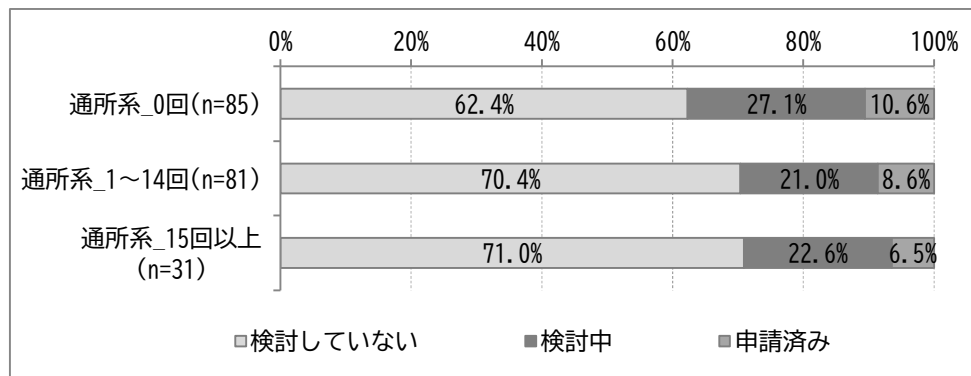
図表1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「検討していない」が62.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.1%、「申請済み」が10.6%となっている。「通所系\_1～14回」では「検討していない」が70.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.0%、「申請済み」が8.6%となっている。「通所系\_15回以上」では「検討していない」が71.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.6%、「申請済み」が6.5%となっている。

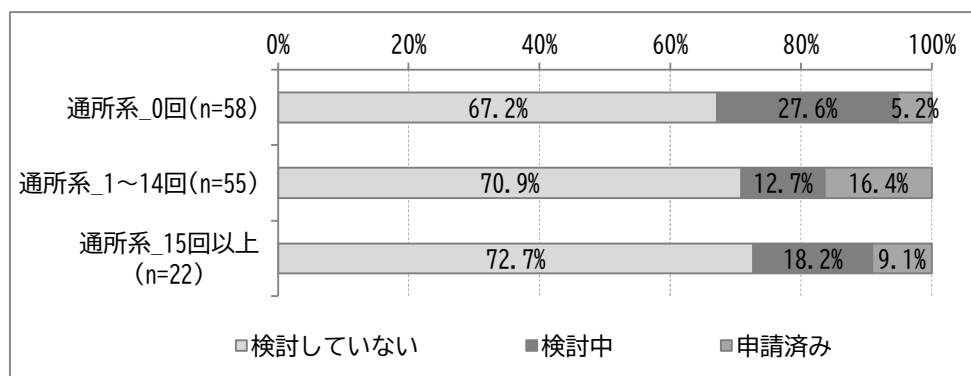
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「検討していない」が67.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.6%、「申請済み」が5.2%となっている。「通所系\_1～14回」では「検討していない」が70.9%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が16.4%、「検討中」が12.7%となっている。「通所系\_15回以上」では「検討していない」が72.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.2%、「申請済み」が9.1%となっている。

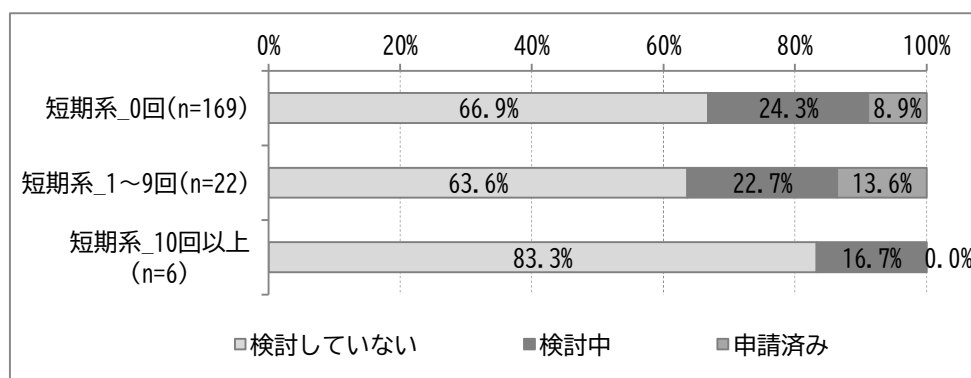
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「検討していない」が66.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.3%、「申請済み」が8.9%となっている。「短期系\_1～9回」では「検討していない」が63.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.7%、「申請済み」が13.6%となっている。「短期系\_10回以上」では「検討していない」が83.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が16.7%となっている。

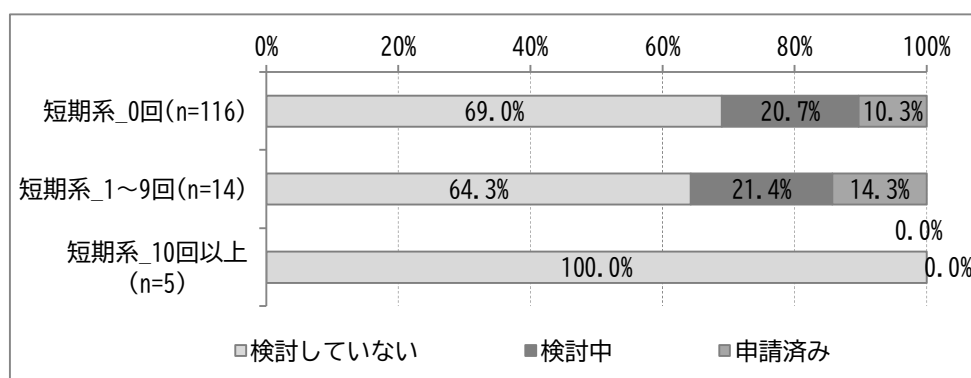
図表1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「検討していない」が69.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.7%、「申請済み」が10.3%となっている。「短期系\_1～9回」では「検討していない」が64.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.4%、「申請済み」が14.3%となっている。「短期系\_10回以上」では「検討していない」が100.0%となっている。

図表1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



## (7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

### 【着目すべきポイント】

- (5) では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-24と図表1-25が訪問系、図表1-26と図表1-27が通所系、図表1-28と図表1-29が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

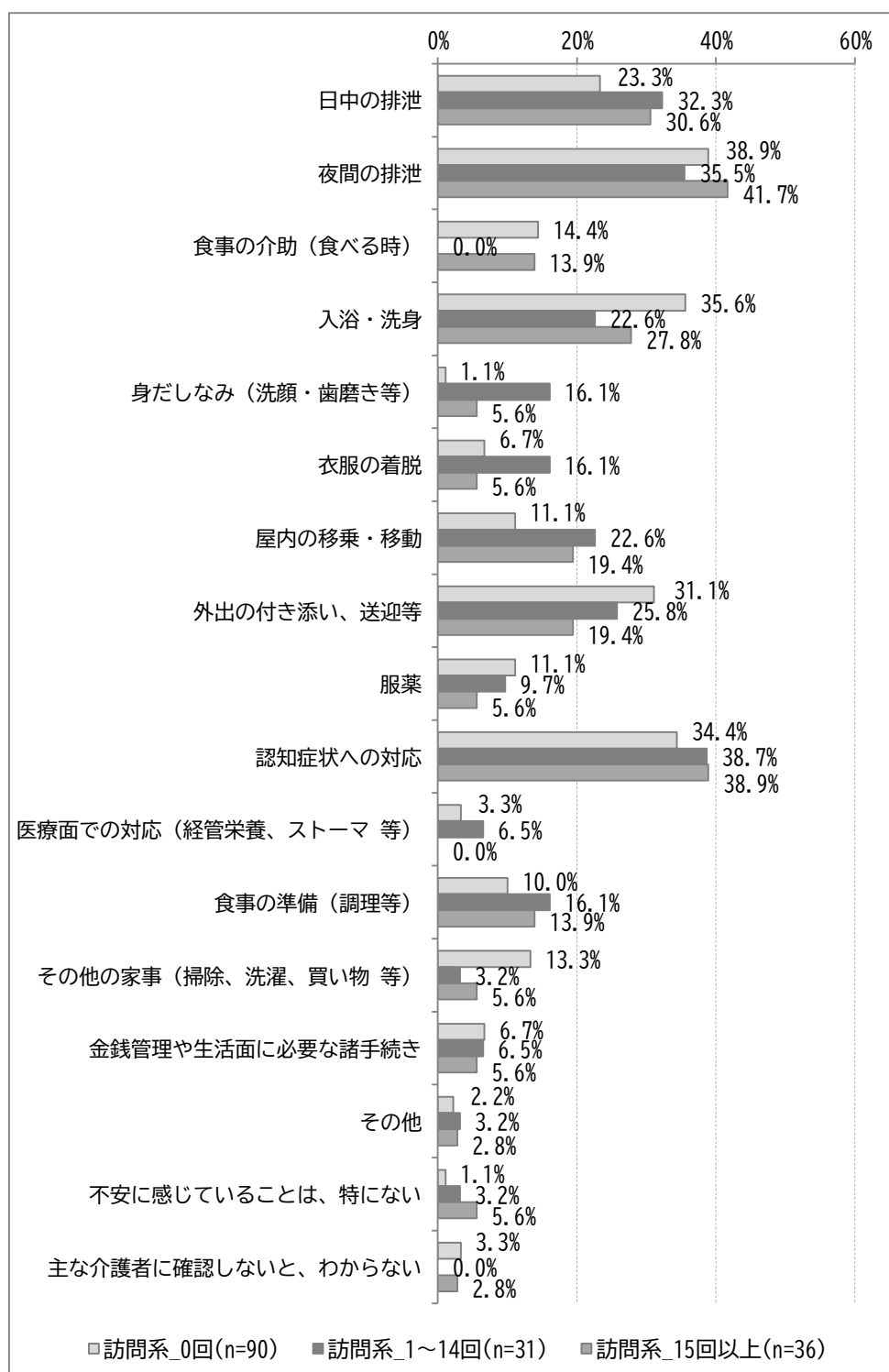
### 【留意事項】

- (5) の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5) の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「夜間の排泄」が38.9%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が35.6%、「認知症状への対応」が34.4%となっている。「訪問系\_1～14回」では「認知症状への対応」が38.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.5%、「日中の排泄」が32.3%となっている。「訪問系\_15回以上」では「夜間の排泄」が41.7%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が38.9%、「日中の排泄」が30.6%となっている。

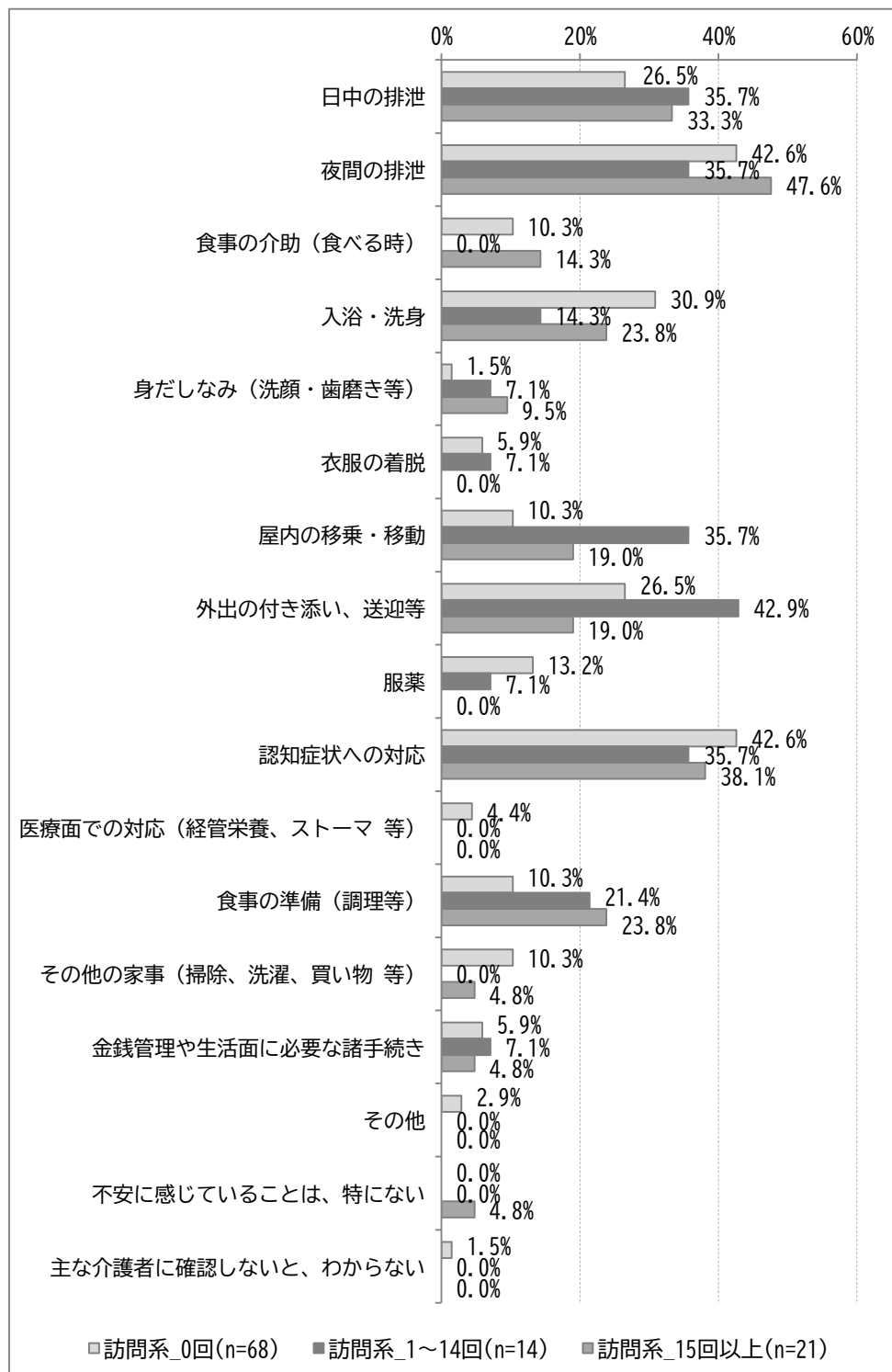
図表1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系\_0回」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が42.6%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が30.9%、「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が26.5%となっている。「訪問系\_1～14回」では「外出の付き添い、送迎等」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が35.7%、「食事の準備（調理等）」が21.4%となっている。「訪問系\_15回以上」では「夜間の排泄」が47.6%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が38.1%、「日中の排泄」が33.3%となっている。

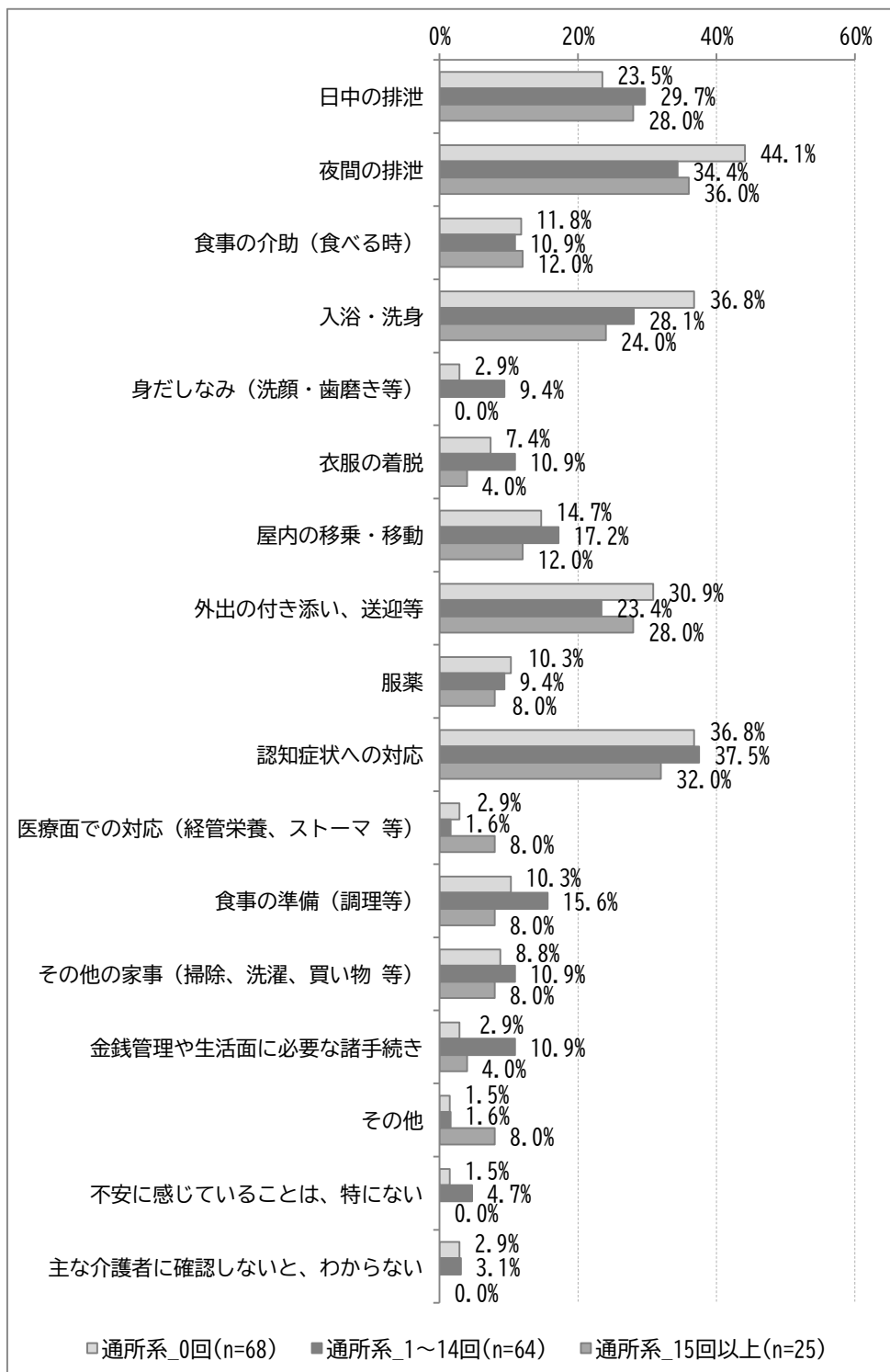
図表1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「夜間の排泄」が44.1%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が36.8%、「外出の付き添い、送迎等」が30.9%となっている。「通所系\_1～14回」では「認知症状への対応」が37.5%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が34.4%、「日中の排泄」が29.7%となっている。「通所系\_15回以上」では「夜間の排泄」が36.0%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が32.0%、「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が28.0%となっている。

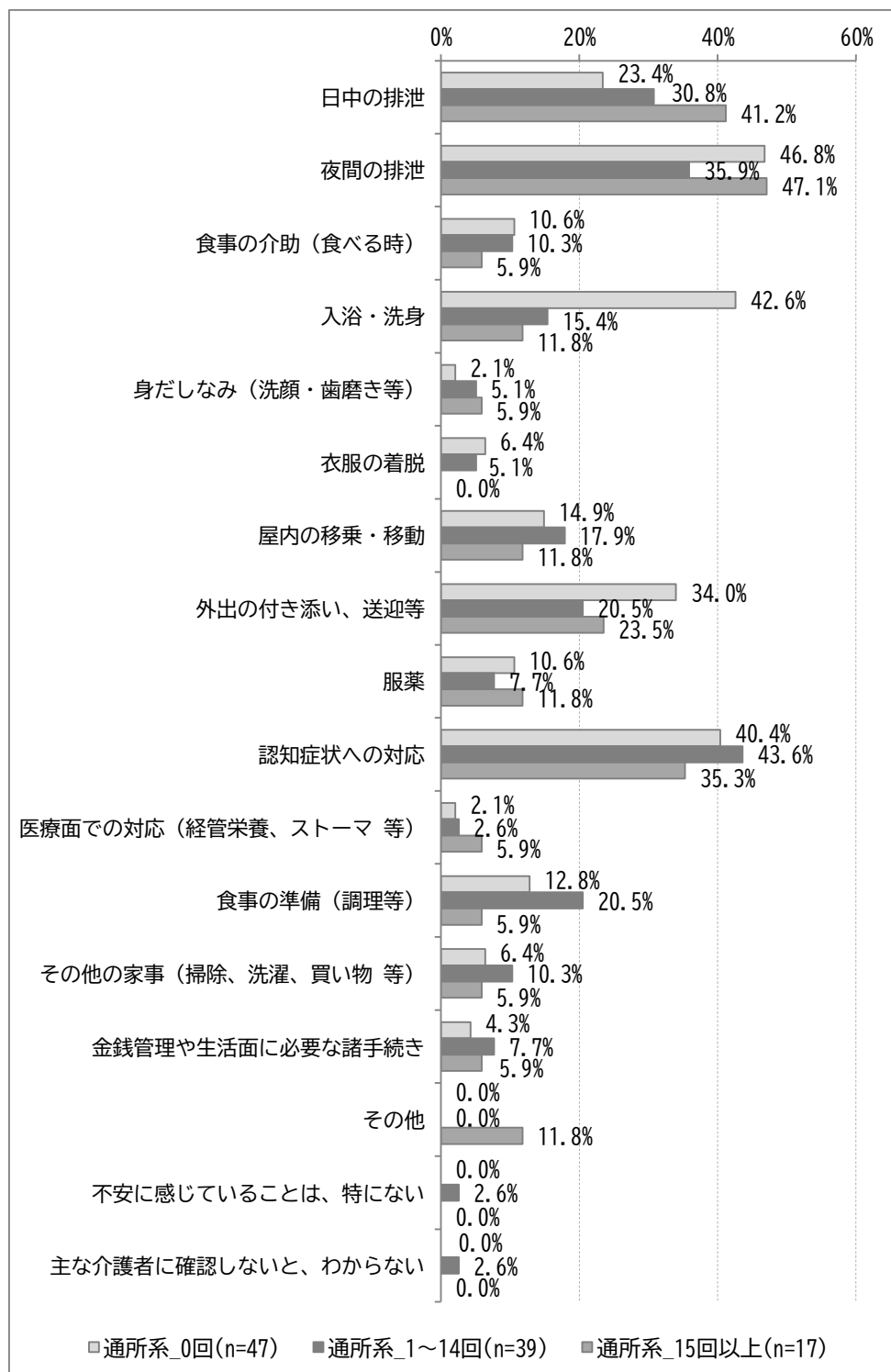
図表1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系\_0回」では「夜間の排泄」が46.8%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が42.6%、「認知症状への対応」が40.4%となっている。「通所系\_1～14回」では「認知症状への対応」が43.6%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.9%、「日中の排泄」が30.8%となっている。「通所系\_15回以上」では「夜間の排泄」が47.1%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が41.2%、「認知症状への対応」が35.3%となっている。

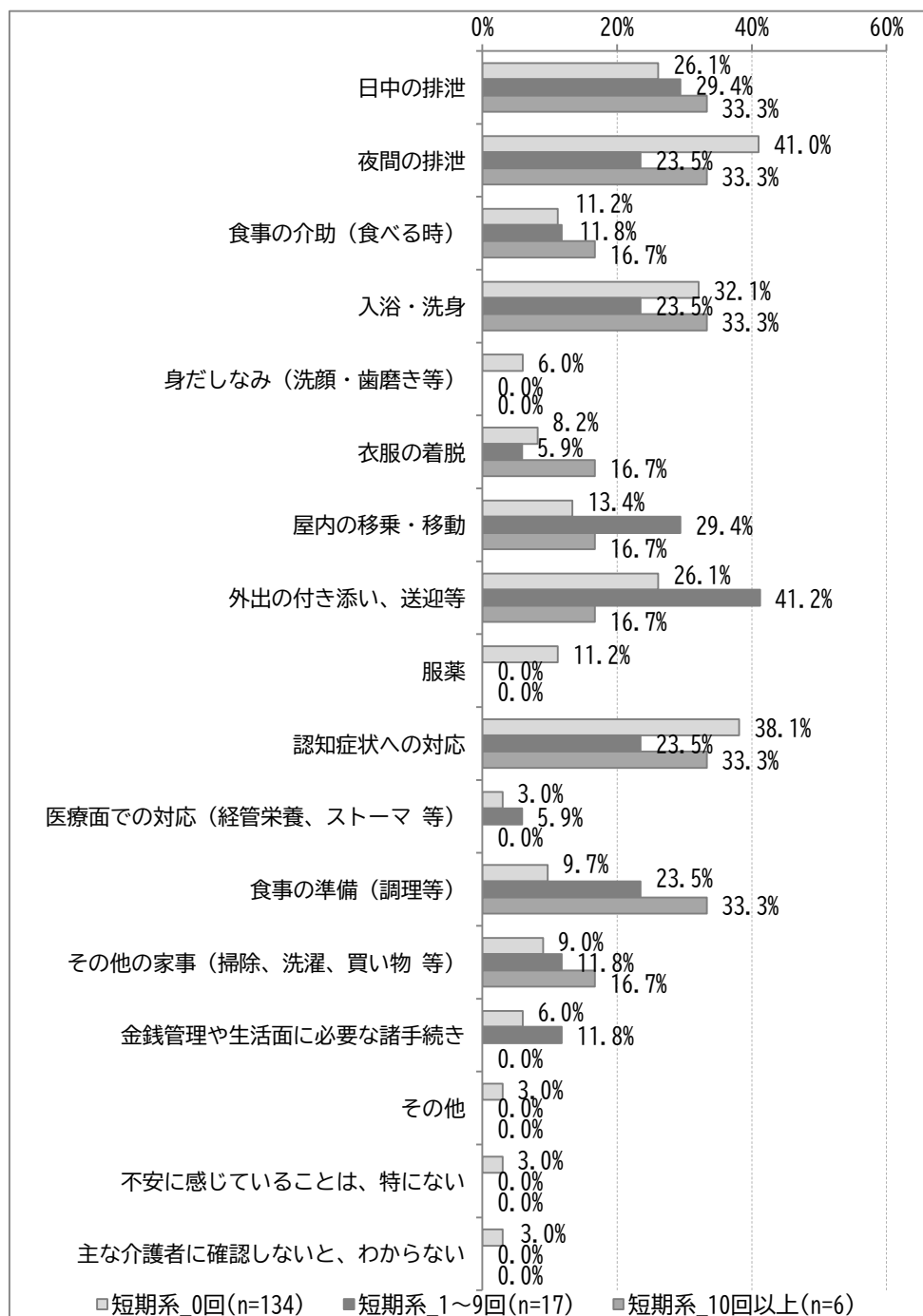
図表1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「夜間の排泄」が41.0%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が38.1%、「入浴・洗身」が32.1%となっている。「短期系\_1～9回」では「外出の付き添い、送迎等」が41.2%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」が29.4%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が23.5%となっている。「短期系\_10回以上」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が16.7%となっている。

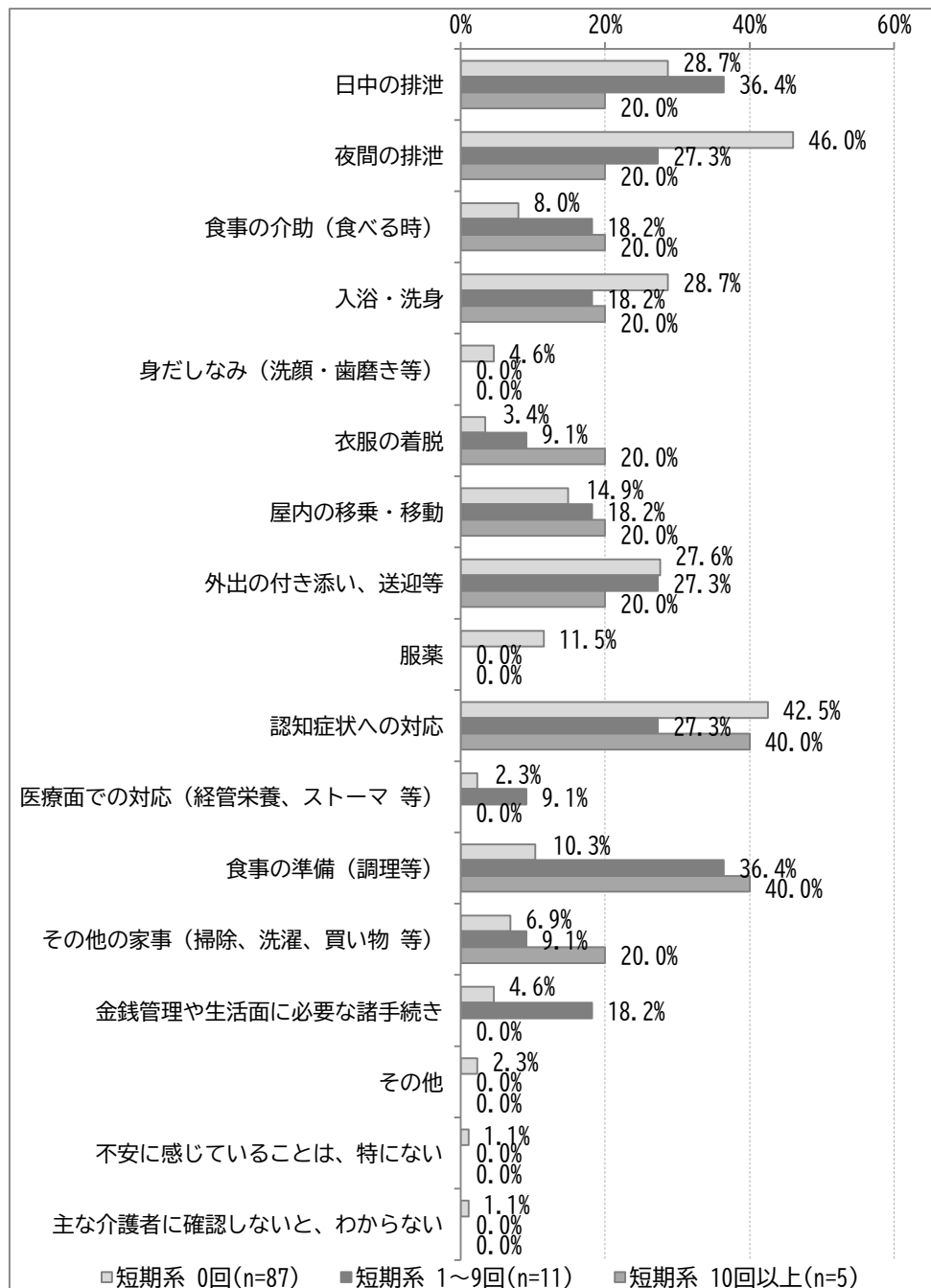
図表1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系\_0回」では「夜間の排泄」が46.0%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が42.5%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」が28.7%となっている。「短期系\_1~9回」では「日中の排泄」、「食事の準備（調理等）」が36.4%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が27.3%、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が18.2%となっている。「短期系\_10回以上」では「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が40.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が20.0%となっている。

図表1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



## 2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

### 2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

### 2.2 集計結果と着目すべきポイント

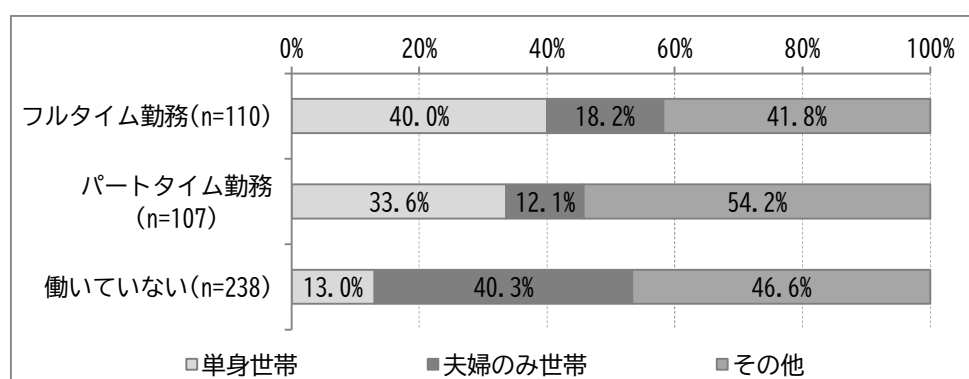
#### (1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

#### 【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が41.8%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が40.0%、「夫婦のみ世帯」が18.2%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が54.2%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が33.6%、「夫婦のみ世帯」が12.1%となっている。「働いていない」では「その他」が46.6%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が40.3%、「単身世帯」が13.0%となっている。

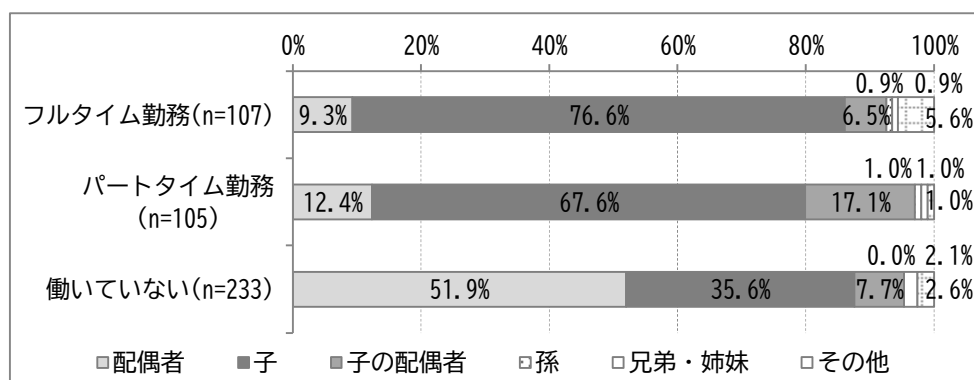
図表2-1 就労状況別・世帯類型<\*\*\*>



### 【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が76.6%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」が9.3%、「子の配偶者」が6.5%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が67.6%ともっとも割合が高く、次いで「子の配偶者」が17.1%、「配偶者」が12.4%となっている。「働いていない」では「配偶者」が51.9%ともっとも割合が高く、次いで「子」が35.6%、「子の配偶者」が7.7%となっている。

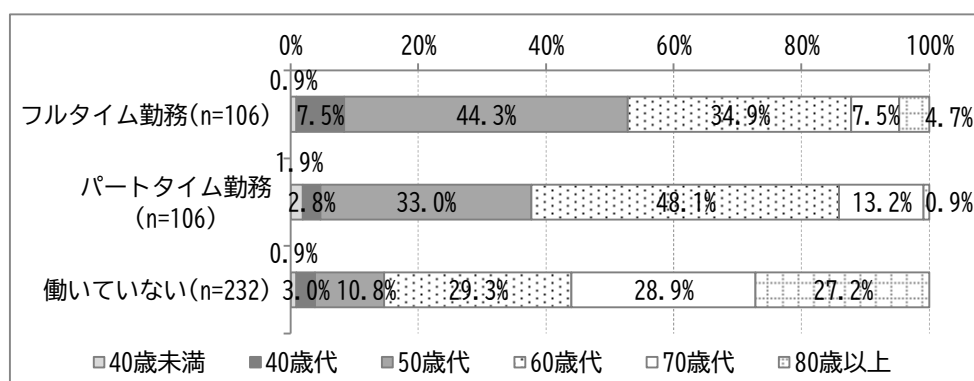
図表2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係<\*\*\*>



### 【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が44.3%ともっとも割合が高く、次いで「60歳代」が34.9%、「40歳代」、「70歳代」が7.5%となっている。「パートタイム勤務」では「60歳代」が48.1%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が33.0%、「70歳代」が13.2%となっている。「働いていない」では「60歳代」が29.3%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が28.9%、「80歳以上」が27.2%となっている。

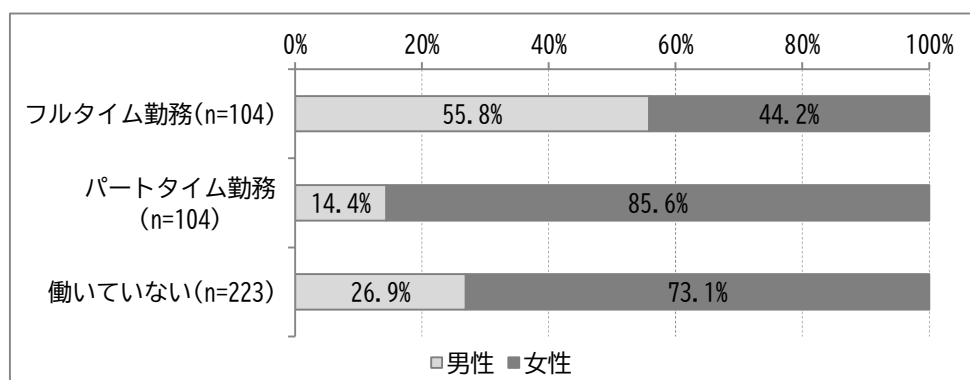
図表2-3 就労状況別・主な介護者の年齢<\*\*\*>



### 【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「男性」が55.8%ともっとも割合が高く、次いで「女性」が44.2%となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が85.6%ともっとも割合が高く、次いで「男性」が14.4%となっている。「働いていない」では「女性」が73.1%ともっとも割合が高く、次いで「男性」が26.9%となっている。

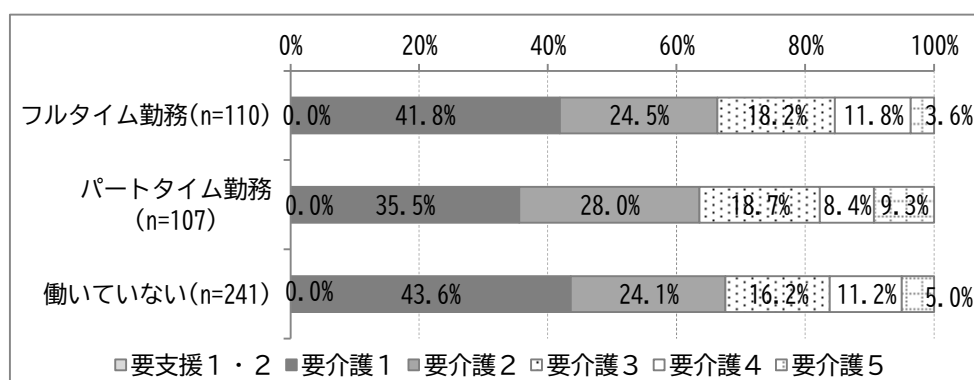
図表2-4 就労状況別・主な介護者の性別<\*\*\*>



### 【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護1」が41.8%ともっとも割合が高く、次いで「要介護2」が24.5%、「要介護3」が18.2%となっている。「パートタイム勤務」では「要介護1」が35.5%ともっとも割合が高く、次いで「要介護2」が28.0%、「要介護3」が18.7%となっている。「働いていない」では「要介護1」が43.6%ともっとも割合が高く、次いで「要介護2」が24.1%、「要介護3」が16.2%となっている。

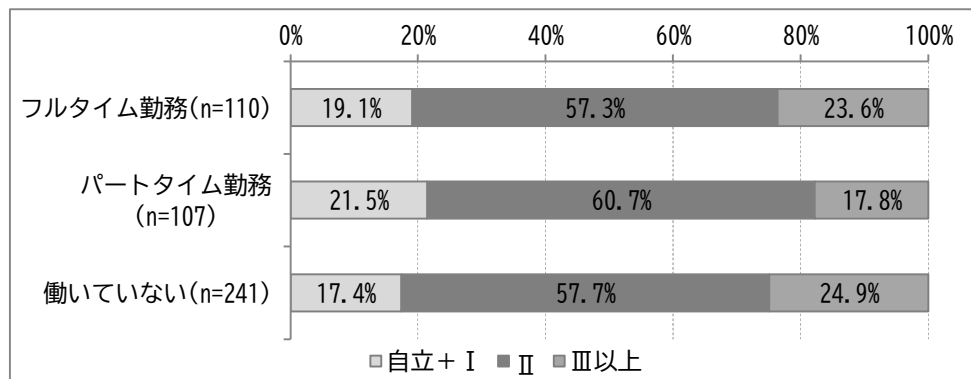
図表2-5 就労状況別・要介護度



### 【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「Ⅱ」が 57.3% ともっとも割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が 23.6%、「自立+Ⅰ」が 19.1%となっている。「パートタイム勤務」では「Ⅱ」が 60.7%ともっとも割合が高く、次いで「自立+Ⅰ」が 21.5%、「Ⅲ以上」が 17.8%となっている。「働いていない」では「Ⅱ」が 57.7%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が 24.9%、「自立+Ⅰ」が 17.4%となっている。

図表2-6 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

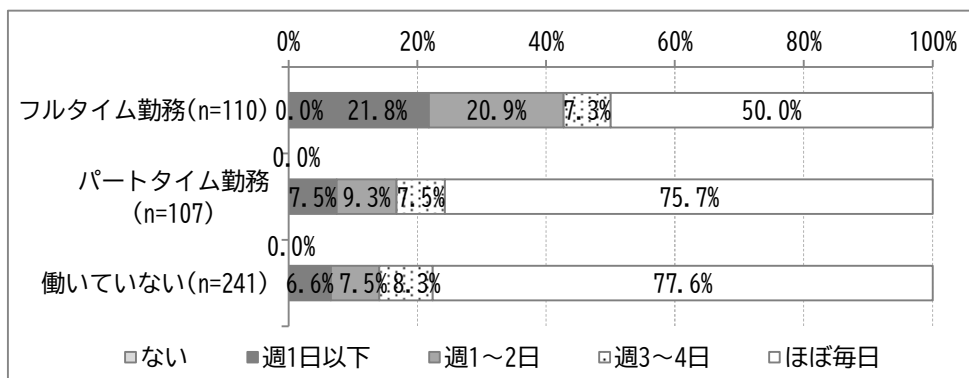
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表2-8、図表2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表2-10、図表2-11）。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「週1日以下」が21.8%、「週1~2日」が20.9%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が75.7%ともっとも割合が高く、次いで「週1~2日」が9.3%、「週1日以下」、「週3~4日」が7.5%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が77.6%ともっとも割合が高く、次いで「週3~4日」が8.3%、「週1~2日」が7.5%となっている。

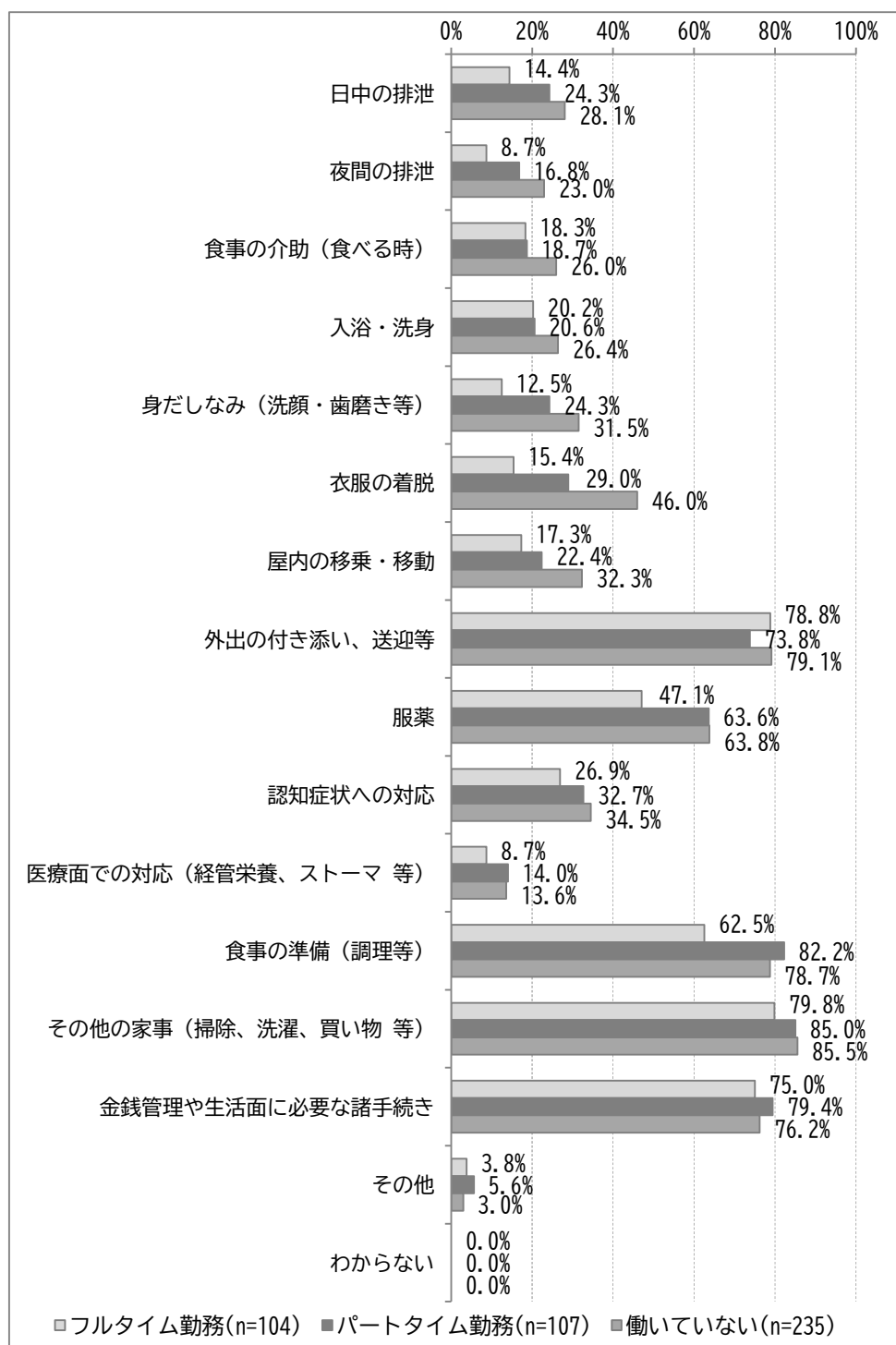
図表2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度<\*\*\*>



## 【就労状況別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が79.8%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が78.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が75.0%となっている。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が85.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が82.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が79.4%となっている。「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が85.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が79.1%、「食事の準備（調理等）」が78.7%となっている。

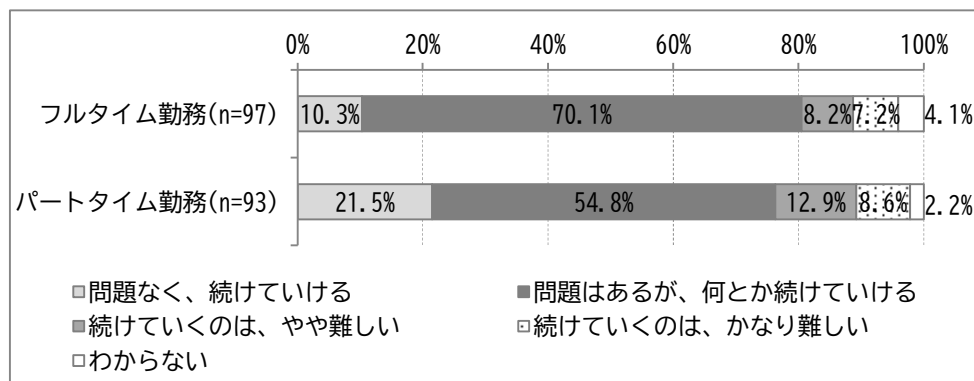
図表2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護



### 【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が70.1%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が10.3%、「続けていくのは、やや難しい」が8.2%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が54.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.5%、「続けていくのは、やや難しい」が12.9%となっている。

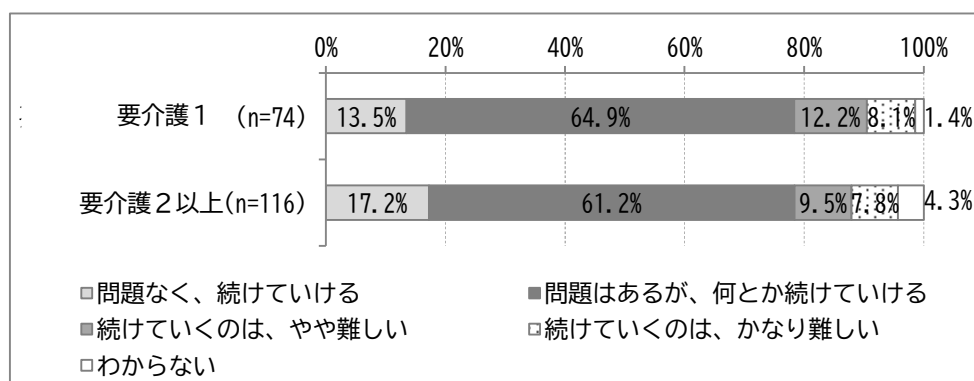
図表2-9 就労状況別・就労継続見込み



### 【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.9%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が13.5%、「続けていくのは、やや難しい」が12.2%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が61.2%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が17.2%、「続けていくのは、やや難しい」が9.5%となっている。

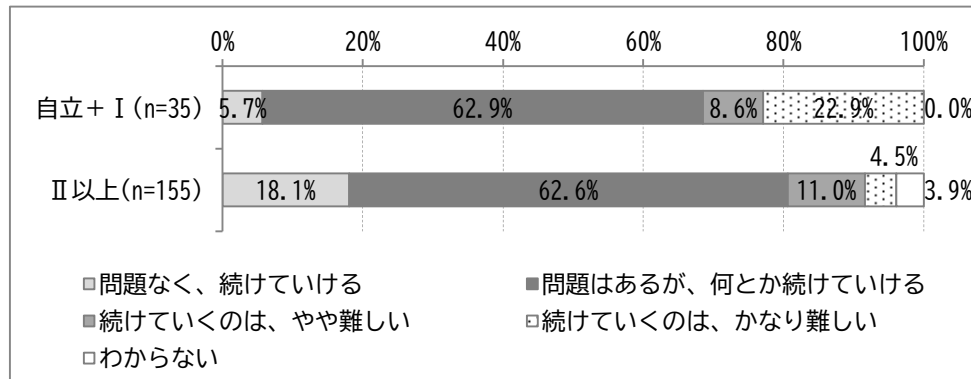
図表2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 62.9%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、かなり難しい」が 22.9%、「続けていくのは、やや難しい」が 8.6%となっている。「II以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 62.6%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 18.1%、「続けていくのは、やや難しい」が 11.0%となっている。

図表2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務） <\*>



### (3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

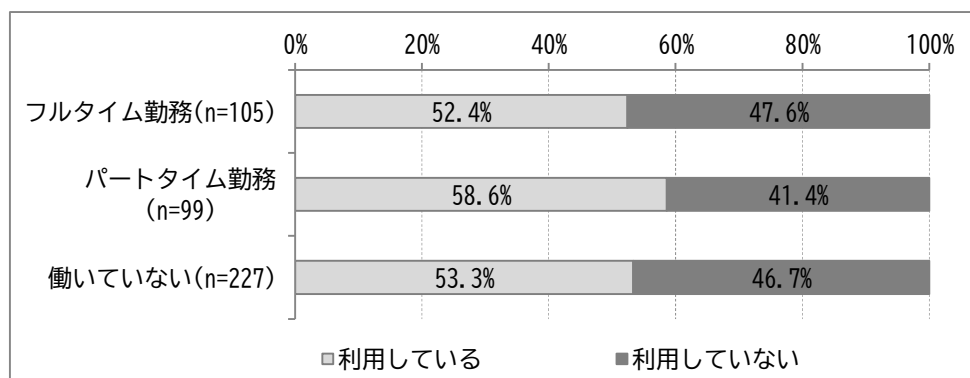
#### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表2-12～図表2-15)。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります(図表2-13、図表2-14)。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

#### 【就労状況別・★介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が52.4%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が47.6%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が58.6%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が41.4%となっている。「働いていない」では「利用している」が53.3%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が46.7%となっている。

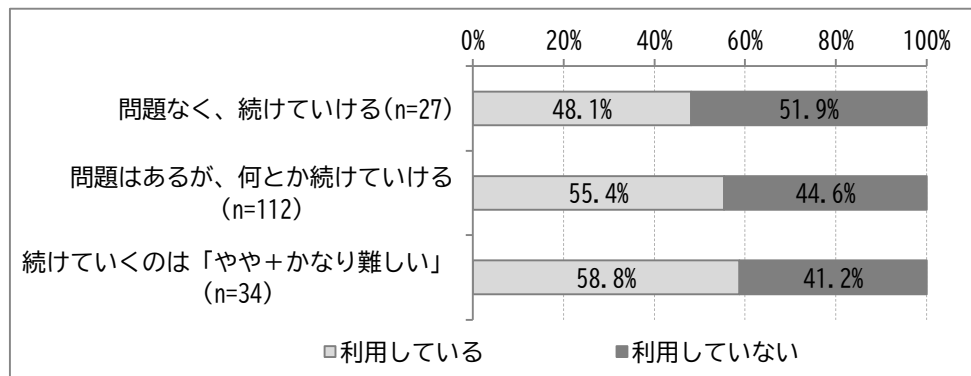
図表2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用していない」が51.9%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が48.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が55.4%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が44.6%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用している」が58.8%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が41.2%となっている。

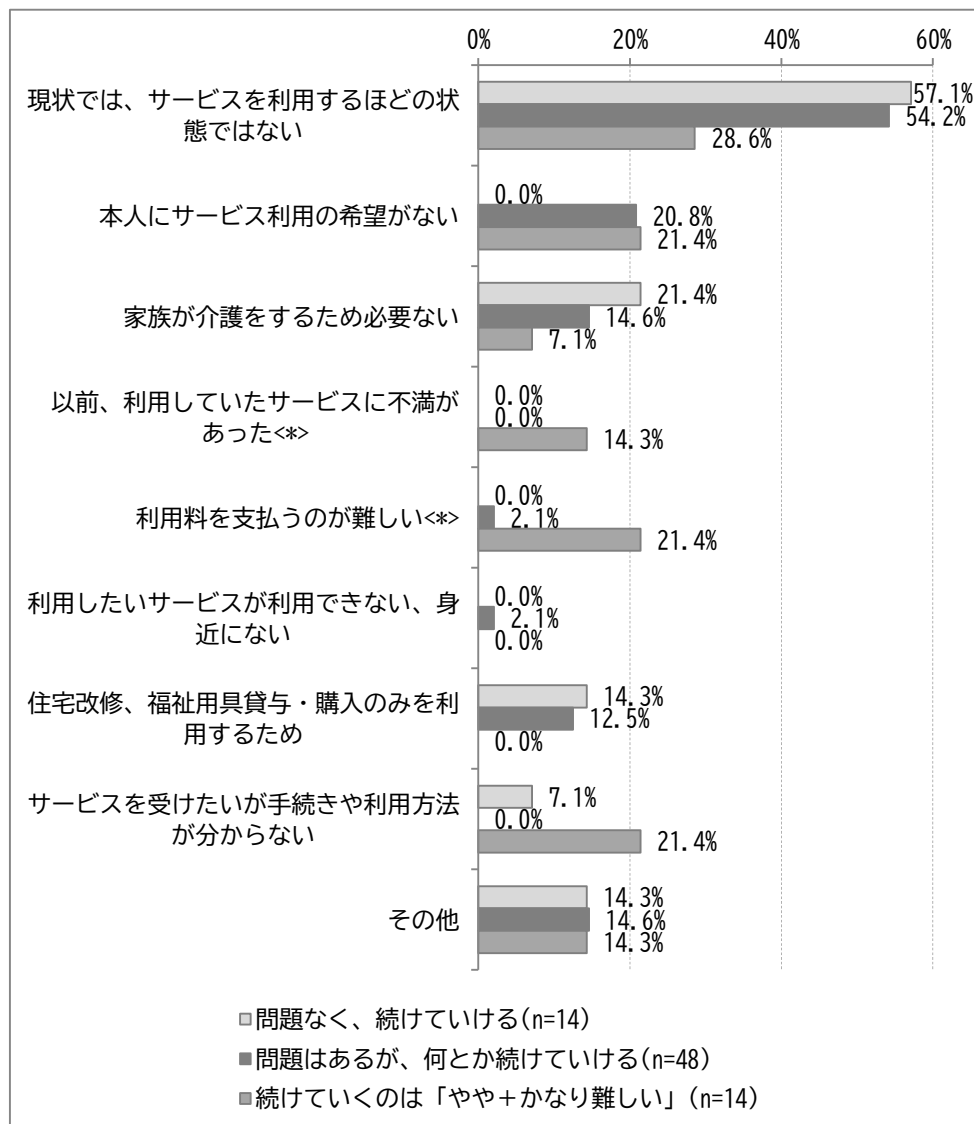
図表2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無  
（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が57.1%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が21.4%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が14.3%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が54.2%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が20.8%、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が14.6%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が28.6%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が21.4%、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「その他」が14.3%となっている。

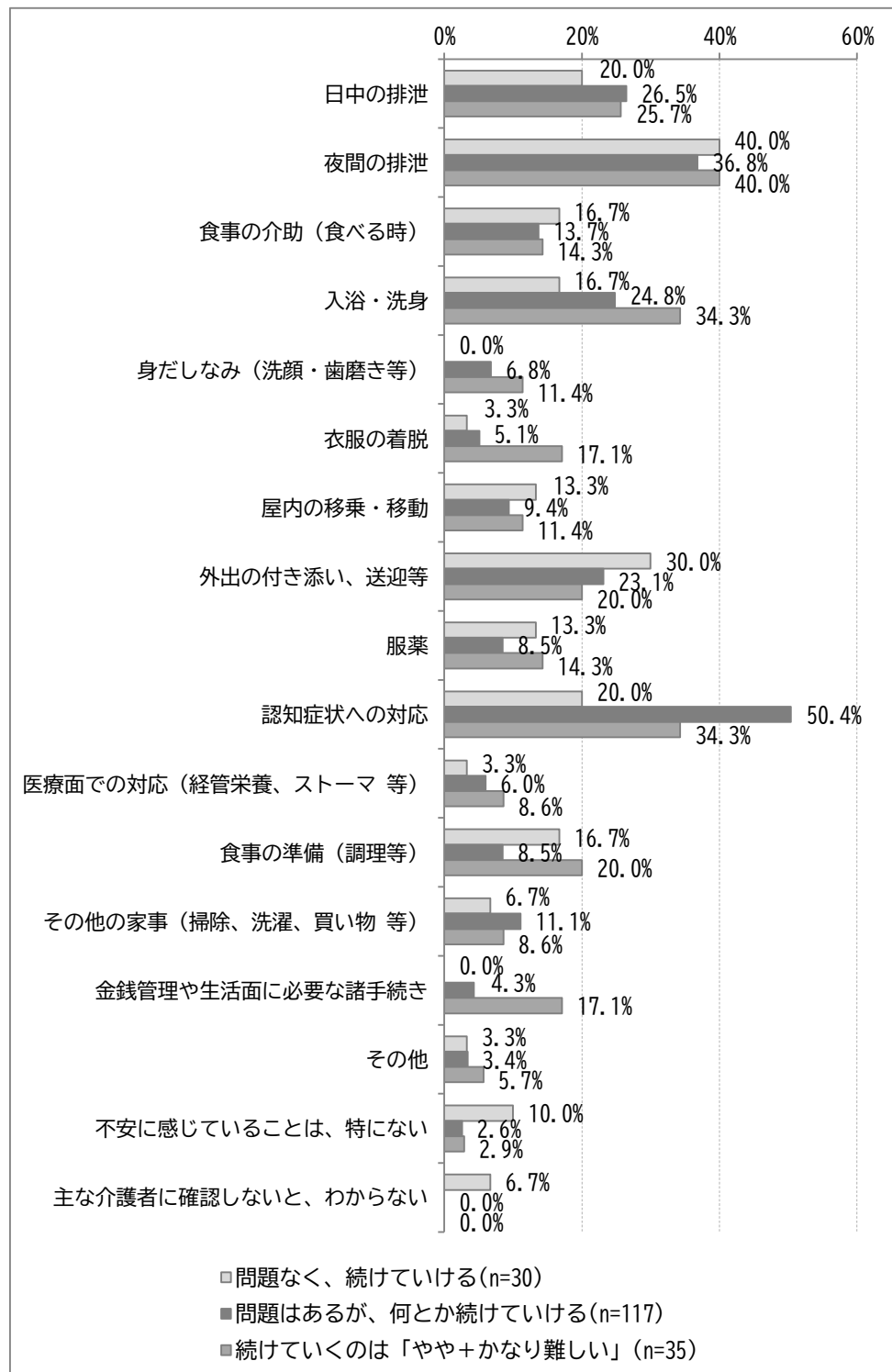
図表2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）



【就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者が不安を感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「夜間の排泄」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が30.0%、「日中の排泄」、「認知症状への対応」が20.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が50.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が36.8%、「日中の排泄」が26.5%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「夜間の排泄」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が34.3%、「日中の排泄」が25.7%となっている。

図表2-15 就労継続見込み別・介護者が不安を感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



#### (4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

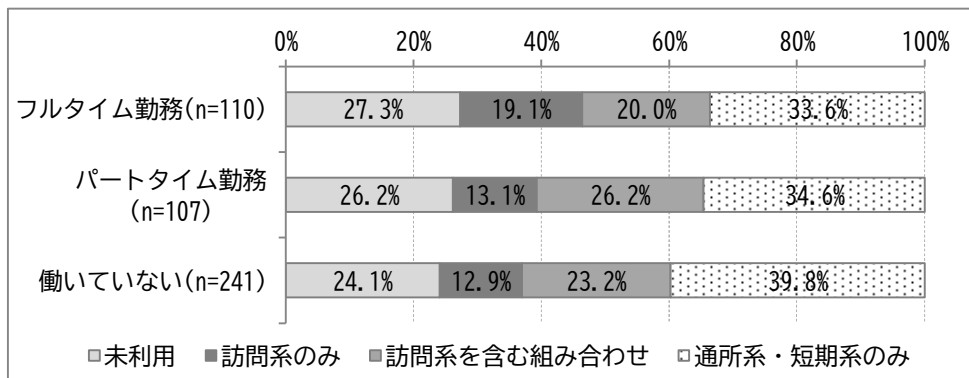
##### 【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表2-16～図表2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

##### 【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が33.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が20.0%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が34.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が26.2%、「訪問系のみ」が13.1%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が39.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」が24.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が23.2%となっている。

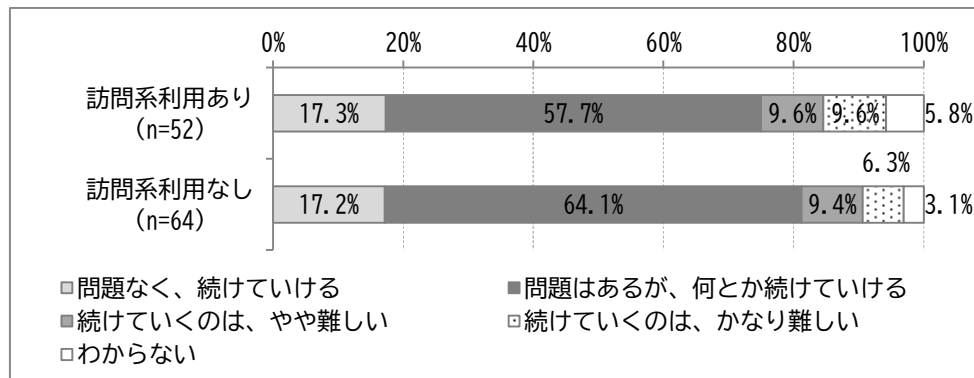
図表2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が57.7%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が17.3%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が9.6%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.1%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が17.2%、「続けていくのは、やや難しい」が9.4%となっている。

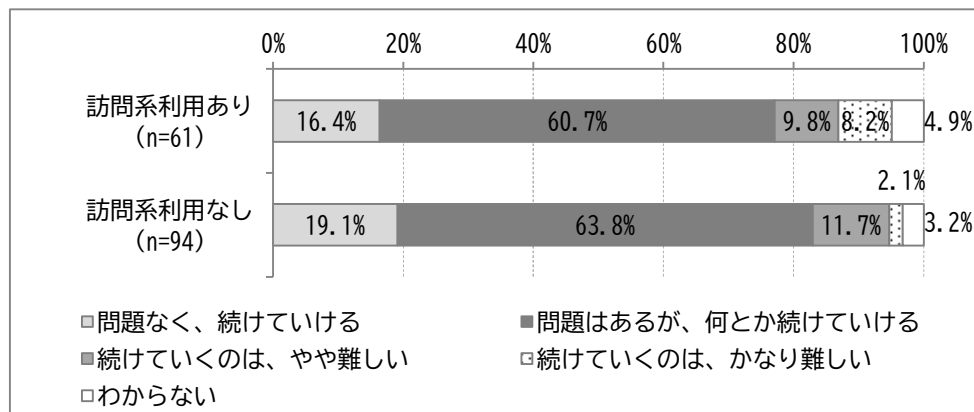
図表2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み  
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.7%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が16.4%、「続けていくのは、やや難しい」が9.8%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が19.1%、「続けていくのは、やや難しい」が11.7%となっている。

図表2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み  
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

**【着目すべきポイント】**

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表2-19～図表2-22）。